

自然の大切さを伝えるポスター

コラージュ技法による表現

A2201524 安田 咲絵

研究の背景

会津地域にはいまだ木々や草花などの自然が多い。その自然の中には動物たちが数多く生息しており、時には姿を見ることができる。しかし近年危惧される自然環境の破壊はどの地域でも確実に進んできている。会津も決して例外とは言えないが、実際に個人が行える対策は限られている。最初の一步として、自然が貴重なものという意識を持つことが重要ではないだろうか。そこで、身近にある自然の魅力に目を向け、再認識できるような媒体を作れないかと考えた。自然の中に棲む生き物の代表として、私たちの身近な存在である鳥を題材に、自然環境の大切さを伝えるポスターを制作する。

研究の目的

会津地域に生息する約 70 種の鳥の中から 15 種類を選び、その羽がデザインされたポスターを1種類につき1枚ずつ制作する。鳥の羽は赤十字募金(赤い羽根)や緑化運動(緑の羽根)など、ひとつのシンボルとして扱われることが多く、メッセージ性が優れているという理由から、メインモチーフとして使用する。今回のポスターでは、鳥が棲む自然の風景や草花の写真などを素材とし、コラージュ技法を用いて羽を形成する。会津地域に生息する鳥の羽を、自然の写真を組み合わせることで、自然があるからこそ動物が生息するということを改めて示し、自然環境の大切さを伝える。

研究のプロセス

1. テーマの決定

自然環境の大切さを伝えるための作品を作ることを考えて、動物の中でも身近に感じやすい鳥を題材にしたポスターを制作すると決めた。ポスターのビジュアルは鳥そのものでなく鳥の羽とし、会津地域の自然の写真で羽を構成するデザインにした。

2. ポスター制作のための調査

ポスターを制作するために必要となる鳥の名前、生息地、羽の色や模様などの情報を鳥の図鑑等を使用して収集した。

3. 写真撮影

鳥の羽を構成する写真を撮影した。撮影場所は会津若松市内で、鳥の生息地(一箕・神指・東山・鶴ヶ城など)に行き山・川・空・林などを写真に収めた。遠距離と近距離、視点を変えるなどして写真を撮るように心がけた。写真撮影をすると同時にそれらの写真を使って羽を仮制作し、制作方法のイメージを固めた。

4. ポスター制作

コラージュ技法を用いて鳥の羽をモチーフにしたポスターを制作した。

成果物

会津若松の自然の写真で鳥の羽を構成したポスターを合計 15 枚制作した。ポスターのサイズは B2 サイズ (515×728mm)。1羽1羽の鳥の羽の模様を引き立たせ、より再現性を高めることができるという理由から、写真はモノクロとした。画像はポスターに使用した羽のうちの4つを掲載している(羽のみ)。

[ポスターにした鳥の種類]

アオサギ・アカゲラ・オオルリ・オシドリ・カワウ・カワセミ・キジ・

キビタキ・キレンジャク・シジュウカラ・スズメトビ・ハクセキレイ・マガモ・メジロ



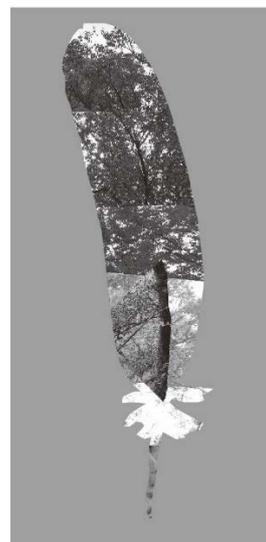
カワウ
(神指・鶴ヶ城・東山)



ハクセキレイ
(市内全域)



マガモ
(東山・神指)



キジ
(門田・神指)

考察

今回の研究は自然環境の大切さを伝えることを目標としたが、作品を通してメッセージを発信することの難しさを改めて実感した。

写真をメインとした作品は自分にとって珍しく、写真のコラージュという今まであまりしてこなかった作品作りを経験できた。しかし、作業効率の悪さやポスターとしての情報量の不足など反省点は多かった。